

# 十和田市事務事業評価シート

## 【事務事業の概要】

整理番号	②-130	実施計画番号	172	事業開始年度	
事務事業名	国際教育支援事業			事業終了年度	
担当課名	指導課			事務の種類(選択)	自治事務
根拠法令等				関連事務事業	
背景や経緯等	小中学校に対して、地域に住む外国人講師を国際教育支援員(EST)としてクラブ活動や国際理解の授業に派遣し、異文化理解を通してグローバル化に対応する教育を推進する。また、小中学生を対象にした国際教育の一環として、イングリッシュ・デイを実施する。				
事務事業の目的	児童生徒が、外国語学習、異文化理解、郷土学習、国際交流等の学習を通じて、世界に関する関心を高め、異なる国の人々と互いに尊重し合い、共生していこうとする態度を育てる。				
実施状況	地域に住む外国人2人を、国際教育支援員(EST)として小・中学校に派遣した。ESTの出身国は英語圏1人、非英語圏1人(大韓民国)。また、小・中学生を対象に、国際教育の一環としてイングリッシュ・デイを2日間実施した。				

## 【人件費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
正職員	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	20	20	20
	人件費(千円)	720	720	720
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)		0	0
	活動日数(日)		0	0
	人件費(千円)		0	0

## 【事業費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
事業費合計(千円)		772	265	265

## 【指標】

活動指標	活動指標名①		ESTの数			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			人	5	2	3
	活動指標名②		派遣校数			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			校	2	2	2
成果指標	成果指標名①		ESTの派遣回数			
	計算式等	単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定	
		回	目標値	120	30	30
			実績値	117	27	
			達成度(%)	98%	90%	
	成果指標名②		イングリッシュ・デイの参加人数			
	計算式等	単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定	
		人	目標値	150	150	100
		実績値	171	108		
		達成度(%)	114%	72%		

## 十和田市事務事業評価シート

### 【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由				
<b>妥当性</b>	①	<b>市民ニーズ等から見る妥当性</b> 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr style="background-color: #ffffcc;"> <td style="text-align: right;">存在意義の見直しの余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">国際化に対応する教育の重要性はグローバル社会の進展により常に高い状態にあるため、妥当な事業である。</td> </tr> </table>	存在意義の見直しの余地	0 / 4	国際化に対応する教育の重要性はグローバル社会の進展により常に高い状態にあるため、妥当な事業である。	
	存在意義の見直しの余地	0 / 4								
国際化に対応する教育の重要性はグローバル社会の進展により常に高い状態にあるため、妥当な事業である。										
②	<b>実施主体である妥当性</b> 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2						
<b>有効性</b>	③	<b>活動指標から見る有効性</b> 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr style="background-color: #ffffcc;"> <td style="text-align: right;">成果向上の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">様々な国籍の外国人と直接触れ合う機会は、国際教育にとって大変有効であり、国と手も推進している分野の一つである。</td> </tr> </table>	成果向上の余地	0 / 6	様々な国籍の外国人と直接触れ合う機会は、国際教育にとって大変有効であり、国と手も推進している分野の一つである。	
	成果向上の余地	0 / 6								
	様々な国籍の外国人と直接触れ合う機会は、国際教育にとって大変有効であり、国と手も推進している分野の一つである。									
④	<b>成果指標から見る有効性</b> 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2						
⑤	<b>事務事業の見直しの余地</b> 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2						
<b>効率性</b>	⑥	<b>事業費の削減の余地</b> 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr style="background-color: #ffffcc;"> <td style="text-align: right;">コスト削減の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">ESTの謝礼については、ALTや他市町村の状況などを踏まえて見直している。</td> </tr> </table>	コスト削減の余地	0 / 6	ESTの謝礼については、ALTや他市町村の状況などを踏まえて見直している。	
	コスト削減の余地	0 / 6								
	ESTの謝礼については、ALTや他市町村の状況などを踏まえて見直している。									
⑦	<b>他の事務事業との統合・連携</b> 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2						
⑧	<b>民間委託等</b> 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2						
<b>公平性</b>	⑨	<b>受益の偏り</b> 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr style="background-color: #ffffcc;"> <td style="text-align: right;">受益者負担適正化の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">ESTはALTでカバーしきれない学校への派遣である。また、イングリッシュ・デイについては、基本的に参加希望者全員を受け入れている。</td> </tr> </table>	受益者負担適正化の余地	0 / 4	ESTはALTでカバーしきれない学校への派遣である。また、イングリッシュ・デイについては、基本的に参加希望者全員を受け入れている。	
	受益者負担適正化の余地	0 / 4								
ESTはALTでカバーしきれない学校への派遣である。また、イングリッシュ・デイについては、基本的に参加希望者全員を受け入れている。										
⑩	<b>受益者負担の見直しの余地</b> 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2						
<b>現在の適性</b>					<b>20 / 20</b>	<b>改善の余地</b>	<b>0 / 20</b>			

### 【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **20** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **0** 点です。

### 【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性(選択) ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

現状のまま継続

#### 方向性の理由 ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

小学校外国語活動や中学校外国語科の教材において、アメリカ以外の英語圏や英語圏以外の内容が増えている。グローバル社会への対応が求められる中、本市においても、外国青年招致事業で招へいしているALTの活用と共に、少しでも多くの国籍の外国人と児童生徒が直接触れ合える機会として、EST学校派遣の一層の充実を図りながら、継続していく必要がある。

#### 今後の具体的な取組方策と狙う効果 ※事業終了年度がH27の場合は、『事業を実施したことにより今後見込まれる効果』を記載してください。

ESTは外国語の学習だけではなく、異文化理解や国際交流学習など、幅広い教育支援が可能であることを小・中学校に周知する。